

職人さんの手仕事を応援する

# クラウド×酒蔵 挑戦記

羽角 均

最終回

第6回 酒蔵管理クラウド kamosの完成

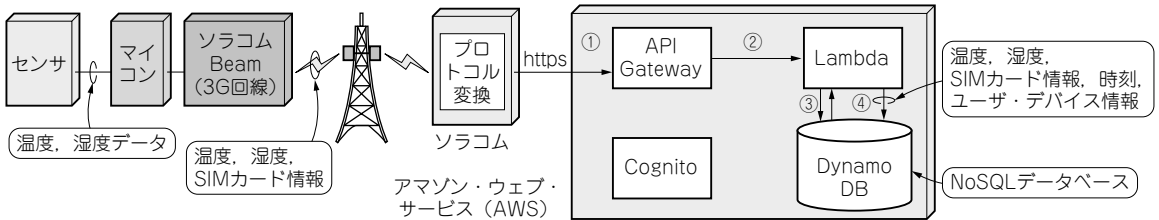


図1 筆者の管理する酒蔵管理クラウド kamos

本連載は島根県の小さな酒蔵・旭日酒造を舞台に、自作しているIoTシステムやシステムの成長の様子を紹介してきました(図1)。最終回は筆者の構築した酒蔵管理クラウドの最終形を紹介します。

## 酒蔵クラウド・サービス構築の方針

### ● IaaS・PaaS・SaaS目線で構成を考える

IaaSは、Infrastructure as a Serviceの略です。本連載でこれまでに紹介したAWSのAPI Gateway、Lambda、DynamoDB、CognitoやソラコムのBeamは、全てIaaS

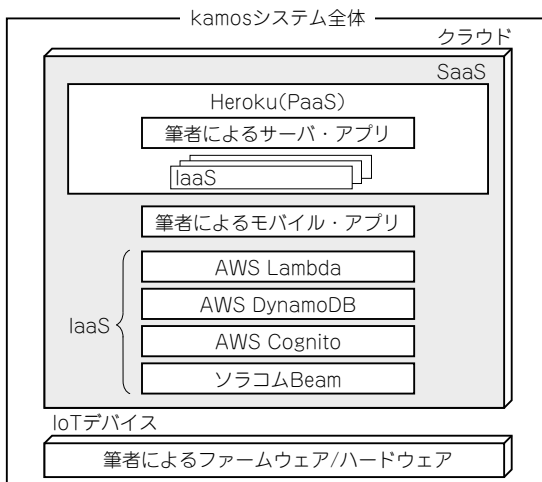


図2 酒蔵管理クラウド kamosは複数のIaaSやPaaSで成り立つIaaSが組み合わされてPaaSになり、それらとアプリケーションが組み合わされてSaaSになる

であり、言わば部品です。ウェブ技術者がこれらを組み合わせて自由にサービスを作れるように、汎用的な機能を提供しています。

PaaSは、Platform as a Serviceの略です。IaaSの組み合わせによって一般的なアプリケーション開発に適した構成を提供しており、開発者はアプリケーション・コードを書くことに集中できます。

SaaSは、Software as a Serviceの略です。アプリケーションがウェブ・サービスの形で提供されているものを指します。例えば筆者らが開発している酒蔵管理クラウド kamosはSaaSです。その実装を分解するとIaaSやPaaSから成っています(図2)。

### ● 核となる機能はIaaSから構築

kamosの開発ではまず、温度と湿度のデータを収集し、それをスマホ・アプリ上にグラフ化する機能を優先しました。ウェブ技術者である筆者が不慣れなハードウェアの設計から一貫して開発するので、ハードウェアやファームウェアがなるべく楽に開発/メンテナンスできるようにアーキテクチャを模索しました。

その模索が成功したかどうかは分かりませんが、筆者の得意なクラウド側においてIaaSを細かく組み合わせて柔軟な構成を作ったことは、正しかったと思います。柔軟性というアップ・サイドと、開発の手間が増えるというダウン・サイドはコインの表裏です。

kamosの設計を始めた2017年ころ、既にIoT向けのPaaSと言われるものが世間には存在しました。PaaSが提供するインフラ構成とサービスに必要な技術要素が合致すれば、開発スピードは飛躍的に向上し